

## 01-047

## マラウィにおける子供の栄養不良の原因と対策についての考察

浦部 大策

聖マリア病院 国際事業部

## 【初めに】

マラウィでは5歳未満児の半数近くが栄養不良状態にある。その原因として、住民の栄養に関する知識不足や貧困が挙げられ、対策として保健員による知識の普及、栄養食の配布などが現場で実施されている。しかし、本当にこれらが子供の栄養不良の根本原因なのか疑問を感じた。我々は2012年よりマラウィの農村部で栄養改善に取り組み、現地のプログラムに沿って乳幼児の栄養改善に取り組んできたが、我々の経験によれば、現地の栄養問題は知識不足や貧困に拠るよりも、地域住民の食材調達に在り方に大きな問題があるのではないかと考えた。

## 【方法】

我々はマラウィ国ムジンバ県で、2011年より今日まで、母親を中心とした住民への栄養教育を実施し、養育者の知識レベルを上げる事で乳幼児の栄養改善を目指す活動を行ってきた。教育活動と同時に乳幼児の身体測定を行い、栄養状態の変化をモニターした。また、合間に村人の経済状態、食材の入手経路、食材の摂取状況など、栄養を取り巻く環境についての調査を行ってきた。今回、これまでに得たこれらの知見を基にマラウィの栄養問題について検討した。

## 【結果】

教育活動を通して村人の栄養に関する知識は確実に増え、6つの栄養グループやその役割を理解している人は初期調査での43%から3年後には86.8%に増えた。また、子供の食事に多様な食材を取り込もうとする工夫も見られるようになった。初期の簡易調査で子供の食事を作るのに食材が不足していると答えた人が81.3%であったが、貧困を理由にした人はいなかった。3年後の調査では、71.8%の人が食材不足を挙げ、その内38.5%の人は貧困で購入できない事を理由に挙げた。但し、同時期の調査で携帯電話の普及は50%に上っていた。

## 【考察】

マラウィの農村部では、自営農業での収穫物が日常食材の供給源となっている。しかし栽培している種類が限定的であるため調達できる食材の種類は少ない。また村内に食材が購入できるような店もなく、欲しい食材を市場から調達する経済行動が発展せず、結局家庭で収穫された限定された食材の中だけで食物アクセスが構築されている。これが、子供の栄養不良の根本原因になっているのではないかと推測される。この問題を解決するには、農家が自営で多様な食材を収穫できるような多角農業を推進し、自家で子供の成長に必要な食材を確保するのが現実的ではないかと考える。

## 01-048

## フィリピンにおける小児の食習慣に関する質問紙調査

青戸 春香<sup>1</sup>、永久 武志<sup>2</sup>、両見 知将<sup>2</sup>、谷村 千華<sup>1</sup>、小林 伸行<sup>3</sup>、Abir Majbaud<sup>4</sup>、森田 鉄二<sup>5</sup>、徳嶋 靖子<sup>1</sup>、深田 美香<sup>1</sup>、大谷 眞二<sup>4</sup>、井上 和興<sup>6</sup>、金山 俊介<sup>7</sup>、花木 啓一<sup>1</sup>

<sup>1</sup>鳥取大学 医学部 保健学科<sup>2</sup>鳥取大学 医学部 附属病院<sup>3</sup>鳥取大学 国際乾燥地研究センター<sup>4</sup>鳥取大学 国際乾燥地研究教育機構<sup>5</sup>鳥取県中部医師会立三朝温泉病院 リハビリテーション科<sup>6</sup>鳥取大学 医学部 医学科<sup>7</sup>鳥根県立大学

## 【目的】

フィリピンでは近年、経済発展とともに急速に非感染性疾患が増加し、その中の糖尿病も死因の上位になってきている。糖尿病を減らすためには、糖尿病患者への患者教育を行うことはもちろんであるが、成人の糖尿病を減らすためには子どものころからの健康教育や予防を行うことが重要である。そこで本研究では、糖尿病を患っている成人患者を対象に、「自分の家族の子どもを、将来、糖尿病にしないためには何が必要か」という知識と、「そのために何を行っているか」という行動についての質問紙調査を行い、子どもの糖尿病発症リスクについての親や家族の認識を知ることが目的とした。

## 【方法】

フィリピン国A地区の糖尿病クリニックに2016年8月に通院した糖尿病患者29人を対象とし、対象者の家で一緒に住んでいる子ども（子や孫など）の食習慣と子どもの将来の糖尿病発症リスクについて4項目の質問を行った。調査は、質問紙の配布し、任意で回答された質問紙を回収した。7名については、回答内容を対面聴取で確認した。質問紙には、フィリピンの公用語であるタガログ語と英語を併記した。

## 【結果】

約7割の対象者の子どもがファストフードをよく食べると答えており、経済発展による食の欧米化が関係していると考えられた。対象者が質問したい項目として、食事の栄養や量など、食事の内容についての相談が多かったため、フィリピンの人々には食事に関する情報が不足している様子が伺えた。一方、子どもの将来の糖尿病発症リスクに関して心配している人が約8割と多かったが、実際に行動に移していない人が半数近くいた。また、間食の内容に気を配っている人が少なく、間食を控え、低カロリーのものを摂取するという意識が乏しかった。

## 【考察】

間食への意識が低いことは、フィリピンに特有のミリエンダ（間食）の習慣の関与が考えられる。親の食生活は子どもに影響するため、親の食生活を指導・教育し、子どもの食生活に反映させていくことが重要であると考えられる。同時に、親だけでなく子どもにも食事のバランスや内容などを学ばせる機会を、今後、設ける必要があると考える。

## 【結論】

今回の研究では糖尿病患・を対象に調査を行ったが、糖尿病患者だけでなく、社会全体が栄養、食事バランス、糖尿病について十分な知識を持つ必要がある。そのためには、子どもの頃から情報を提供できる学校教育の段階からの健康教育が重要と考えられる。